

AIJでは立場の勉強を強いられます。自社の様には適用しない環境の中、企業規模、事業も異なる会員が交流し、時に切磋琢磨できる学び合でもあります。

今、日本を取り巻く事業環境は大きく変化しています。雇用については、私が入会した五年前に比べ複数の企業に勤めるダブルワークや裁量制・ギグワークが広く認知され、多様な働き方も推奨されています。世の中に求められる人材を目指し、ジョブ型のビジネススマンも増えてい

また、経営においても、後継者不足による事業承継問題やスモールM&Aの浸透、COVID-19をきっかけに祖業を捨てる決断を下した企業等もあり、私運も対応できる力を常に備えておく必要があります。AIJは学び舎として十二分に活用できます。新しい環境に飛び込み、与えられた役割を全うしましょう。

例会の内容が本業と関係がないことでも、部会の運営そのものが会社組織に反映させられたり、例会の企画が事業戦略に置き換えられたり、その過程の中から事業のヒントや種が必ず隠れています。ひとつひとつのAIJ活動が経験として積み重なっていき、経験の点と点がつながって線になる時があります。そして過去の活動と現在の活動がつながる実感をもちます。さらには自社の事業への発想が浮かび、閃く瞬間が生まれます。線がつながり円になる直感。その時、皆さんがこれを学ぶためにAIJに入ったのかもしれないと思うはずで、全ての行動は皆さんの未来につながっています。本業と異なる環境下で身を置いてAIJ活動を粘り強く、胆力を持って参加し、考え続けることが会員にとって何よりも重要です。

「結びに」
逆境下だからこそ、私たちは活動を通して学びを止めてはならない。
過去にもバブル崩壊、リーマンショック等、数多くの景気が低迷による経済不況を乗り越えてきました。
現在では、地震や台風被害等の天災も頻

繁に見舞われます。

そして東日本大震災の発生から一〇年の節目を迎えます。しかし、人間には困難に適応する能力が備わっています。

価値観が大きく転換する今、新しい事業やサービスが雨後の筈の様に生まれてきています。

私達は青年経営者団体として、逆境を力にチャンスと捉え取り取る活動を行っています。さしう。

歴史から過去を知り、現在を生き、未来を創造する。
AIJ活動の歴史を一つ一つも学べることは多々あります。
いつか未来の会員が私達の活動について、「世界中をCOVID-19が席巻して、先輩の奮闘は過しかつたなあ」と思いを馳せる、その未来の会員が私達の二世三世会員であれば尚更本望です。次世代に棒をつなぐ為、私は最善を尽くします。

またAIJ活動は楽しくもあり苦しくもありです。出会いもあれば別れもあり活動を通して、喜びや悲しみを共有できる仲間が作れる組織です。リーダーは常に孤独ですが、AIJでは切磋琢磨できる仲間の力も借りて自身の棒を飛び出してみましょう。

限界を超える環境が人の才能を開花させる。会の魅力から自然と人が集まり、能力に感化されて目の色が変わった会員を何人も見てきました。
今こうして所信を述べている私もその一人かもしれません。
面白いから夢中になれる。その先に自身の成長を実感するはずで。

私はそう信じています。
活動に際し、深い理解と支援を頂ける家族や従業員・地域の皆様への感謝を胸に刻み、先輩方々が築き上げたAIJイズムを継承し守り、変化に恐れることなく、離れることで新しい価値を創造できる様、会員同士が団結し力に変え、活動を通じていきましょう。
どうぞ本年度も宜しくお願いします。

スローガンについて

笹川 義昭



今回、スローガンを決めた経緯と私なりの考察を書きたいと思

います。
時の理事長が掲げるスローガンですが、主には二種類に分かれるのではないのかなと思います。一つは、自身の生い立ち職種等、環境の中か

ら生まれ育つ環境の中(座右の銘)、もう一つは社会情勢や組織が求められていた時代が価値観に合わせた言葉。今年の後者になりました。

さて、当初のスローガンの候補は、「限界突破」「再創造」「修身」「無骨」「義」「成長」「情熱を燃やせ」「守破離」「一歩前へ」

「勇往邁進」(色々と出てきた(笑))
余談ですが、理事長の余談ですが、理事長の自身が一歩進んでい

るもの、足りないもの、だよとおっしゃる先

輩もいらつしやいます。諸説ありますね。
また、毎年のAIJの

スローガンをご自身でスローガンをにされ

しやいます。スロー

ガンについて色々と

開き方があると思

いいます。スローガ

をスローガンを決め

る時期が近づく中、

スローガンの中止が

一月本集会

賀詞交歓会開催報告

専務理事 青木隆一

一月八日(金)に、本

年度最初の集会であ

り、新年の挨拶を交

わたり、新年の挨拶